

公益社団法人 茨城県作業療法士会
令和6年度 第2回 常任理事会 議事録

令和6年9月13日19時00分、Web会議ツールZoomによるWeb会議において、理事名出席の下、常任理事会を開催し、下記議案に付き全員一致をもって可決確定の上、21時00分に散会した。

出席：(理事) 大場、小森、山倉、寺門、笥、細田、田口功、藤田、片岡、後閑、浅野、松本 13名
廣瀬副部長

書記：松本

【I 審議事項】

1. 令和6年度茨城県最低賃金引上げに伴う、当法人の時給額の見直しについて 財務部 後閑部長
⇒ 承認

<審議概要>

- ・茨城県の最低賃金が1,050円に引き上げられることにもとない、当法人の時給額をいくらにするのが妥当か審議したい。
- ・現行は時給1,000円であり、1050円でも法制度的には問題ないが、今後も考えると1100円ではどうかと考えている。
- ・荒木監事からは1100円は妥当ではないかとのことでご意見いただいている。
- ・今回の上り幅はとても大きく、今後も同様の大幅な引き上げが考えられる。
- ・必要以上に上げてしまうと法人の財務を圧迫してしまう可能性もあるのではないか。
- ・事業の人件費は公益事業にかかわるため、財務上は問題なく、これまでの上げ幅を考えると100円上げてよいのではないか。
- ・最低賃金10月1日以降適用される。
- ・最低賃金もそうだが、事業継続のためにも会員を増やす必要がある。または収益事業の必要性があるかもしれない。

<審議結果>

- ・人件費は10月1日から1100円で進める。

2. 「特定費用準備資金」について 財務部 後閑部長 ⇒ 承認

<審議概要>

- ・公益目的保有財産は前年度使っているため、当法人設立40周年に向けて積み立てる必要があるのではないかと考え、今後そう言った予算のかかる事業に関してどのように積み立てをしていくかを情報共有、審議いただきたい。
- ・積み立てについて荒木監事には事前に相談しており、公益社団法人でも目的があれば積み立てをすることができることが分かった。
- ・積立額としては100~150万円を考えている。
- ・40周年事業に関しては来年のため、特定費用準備資金として積み立てる必要はないかもしれないが、今後、大きな事業がある場合、目的をもって積み立てられるとよいのではないか。

<審議結果>

- ・積み立ては可能だが、40周年事業に関しては積み立てずに進める
- ・目的があれば特定費用準備資金として積み立てができることを共有した。
- ・今年度の公益認定基準の着地予想をみて、積み立てをするか否かを再検討する。

3. 地域保健総合推進事業の進捗状況について イキイキ地域づくり事業部 藤田部長 ⇒ 継続審議

<審議概要>

- ・伴奏支援に関して2回目の会議が終わり、当事業の概要を取りまとめることができたため、今後の進展について共有、審議いただきたい。

- ・茨城県士会は地域保健・産業保健の健康保持の実績は把握していないため、今後、メンタルヘルスに焦点を挙げて進めていこうと考えている。
- ・情報収集を進めていくにあたり、これまで委員は3名だったが県立医療大の佐々木先生にも参加していただいている。
- ・一旦、11月で事業は終了になるが、今後も継続できればと考えている。
- ・IRPAやPOS会の凝集性が高いところが茨城県の強みがある。
- ・伴奏支援で考えていることはメンタルヘルスと余暇活動の充実をメインに考えている。関係機関とネットワークを作り、POSのヘルスケアパッケージを作るところを目指す。
- ・他団体との共同について大場会長と話し合い、共同するにあたりOTとしての役割をどうしていくか、OTの強みをどうしていくかについて明確にしたうえで他団体に打診したほうが良いのではないかと助言があり、再度今後については検討する予定でいる。
- ・協会けんぽで健康づくり推進事業認定制度のなかの出前講座に参入できないか検討している
- ・今回、メンタルヘルスに焦点を当てたかという身体的な疾病よりも精神的な疾病のほうが増えているため、そこに専門職がかかわればと考えている。
- ・時間が迫っているため継続できる事業になることが大事になってくる。
- ・11月までだと次年度に向けてのロードマップが必要なのではないか。
- ・今後、士会から派遣する場合人件費をどのように捻出するかは、その都度相談するのが良いのではないか。

<審議結果>

- ・引き続き事業継続、審議していく

4. 茨城ロボッツについて 地域貢献局長 細田局長 ⇒ 継続審議

<審議概要>

- ・茨城ロボッツの川崎社長と直接話す機会があり、お互いの意見のすり合わせをして今後について話をしたため、その報告と審議いただきたく議題に上げた。
- ・県士会としては作業療法士の普及啓発、茨城ロボッツとしてはスポーツエンターテイナーとして社会貢献・集客・ブランド化していきたいというそれぞれの目標を明確化した。
- ・県士会としてはユーザー支援事業として試合観戦やホームゲームでのブース出展など提案した。
- ・茨城ロボッツではホームゲームは満席でこれまでブース出展で一部託児所のような役割を担っていたが、今は別で託児所を開設しているため、別な形でかかわっていただけないかと打診があった。
- ・水戸での集客は困ってはいないが、年に1回、神栖や日立などで開催される試合では集客で困っているため、そこにユーザー支援事業として何かできないか考えている。
- ・茨城ロボッツと協力するにあたり、県士会の活動に賛同していただいたうえで取り組んでいる必要がある。
- ・茨城県内では障がい者スポーツ団体は少なくため、専門職として茨城ロボッツとどうかかわってかも大事ではないか。

<審議結果>

- ・今後も情報交換しながら継続審議していく。

【Ⅱ報告・連絡事項】

1. 教習所での実車評価の件 寺門専務

- ・茨城県の高次脳機能障害支援センターの高松センター長と夏加委員長と医療大で自動車教習所協会に訪問した際、実車評価をやりたいという前向きな声掛けがあり、協力の要請があった。
- ・県士会の委員会でかかわる予定ではあるが、規模から考えると高次脳センターとどのように一緒に考えていくかを今後検討していく必要があるかもしれない。
- ・進め方に関しては今度の検討会で話し合われる予定でいる。
- ・夏加委員長からはモデルを作ってからがいいのではないかと話があった。
- ・現場のスタッフは高次脳機能障害の理解から始める必要がある

- ・内容的にも県士会以外にも協力を仰がないといけないのではないか。有識者の先生、県の障害福祉課地の連携、医師会との連携が必要と考える。

2. 県学会の進捗について 浅野部長

- ・講演依頼としてゆいまわりの仲間先生、いねいぶるの宮崎先生に講演依頼している。
- ・演題募集に関しては延長しており、理事の皆様にも連絡する予定でいる。

- ・令和6年11月3日（日）9：00～ 茨城県作業療法士会事務所またはZOOMにて開催予定

以上